



## 株式会社明治安田総合研究所 「働き方に関するアンケート調査」結果

調査対象	全国20歳以上69歳以下の男女 ※職業が、正社員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、公務員と回答した人		
調査方法	WEB アンケート調査	有効回答数	1,800人
調査時期	2023年10月27日～10月29日		

FIRE (Financial Independence, Retire Early) という言葉をご存知だろうか。FIREは「経済的自立、早期リタイア」と訳され、貯蓄や節約、投資などによって資産形成を図ることで経済的自立を果たし、早期退職することを意味する。

定年まで勤めあげることが美德とされた時代は、いまは昔。経済的に自立することで、会社などに縛られることなく自由に暮らす生き方に注目が集まっている。

「FIREしたい」……26.2%

明治安田総合研究所が実施したアンケート調査によると、「FIREしたいか」という問いに対し、全体では26.2%が「あてはまる」(「あてはまる」+「ややあてはまる」)と回答した。「あてはまらない」(「あてはまらない」+「あまりあてはまらない」)と回答したのは73.8%であった。

「あてはまる」を性年代別に見ると、男女とも30代が最も多くなっており(男性41.7%、女性36.1%)、以下、20代および40代が他の年代に比べて高くなっている。

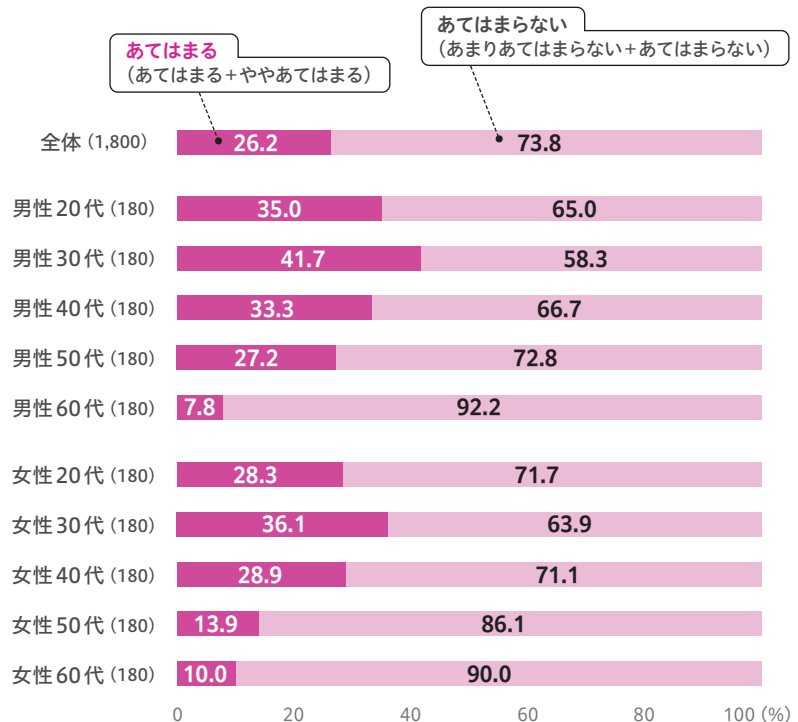
### 社会保障・終身雇用への不安と価値観の変化

FIREが注目される背景には、年金をはじめとする社会保障制度の持続性に対する不安や、終身雇用制を見直す企業の増加、コロナ

## FIRE志向が最も高いのは 男性の30代で 41.7%

### 性年代別の「FIREしたい」人の割合

【単一回答 (n=1,800)】



禍を経て多様化した働き方が影響している可能性もある。

新NISAがスタートしたこともFIREを考える人々にとっては追い風だ。『貯蓄から投資へ』を推進する政府は、約2,000兆円にも上るといわれる家計の金融資産の開放を促している。

いうまでもなく、FIREはこれ

までのような、定年が前提のリタイアとはまったくの別物である。

人生100年時代でFIREを志す人々は、リタイア後の人生に何を求め、どのような生き方を実現しようとしているのか。そのあたりが気になるところだ。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ▲